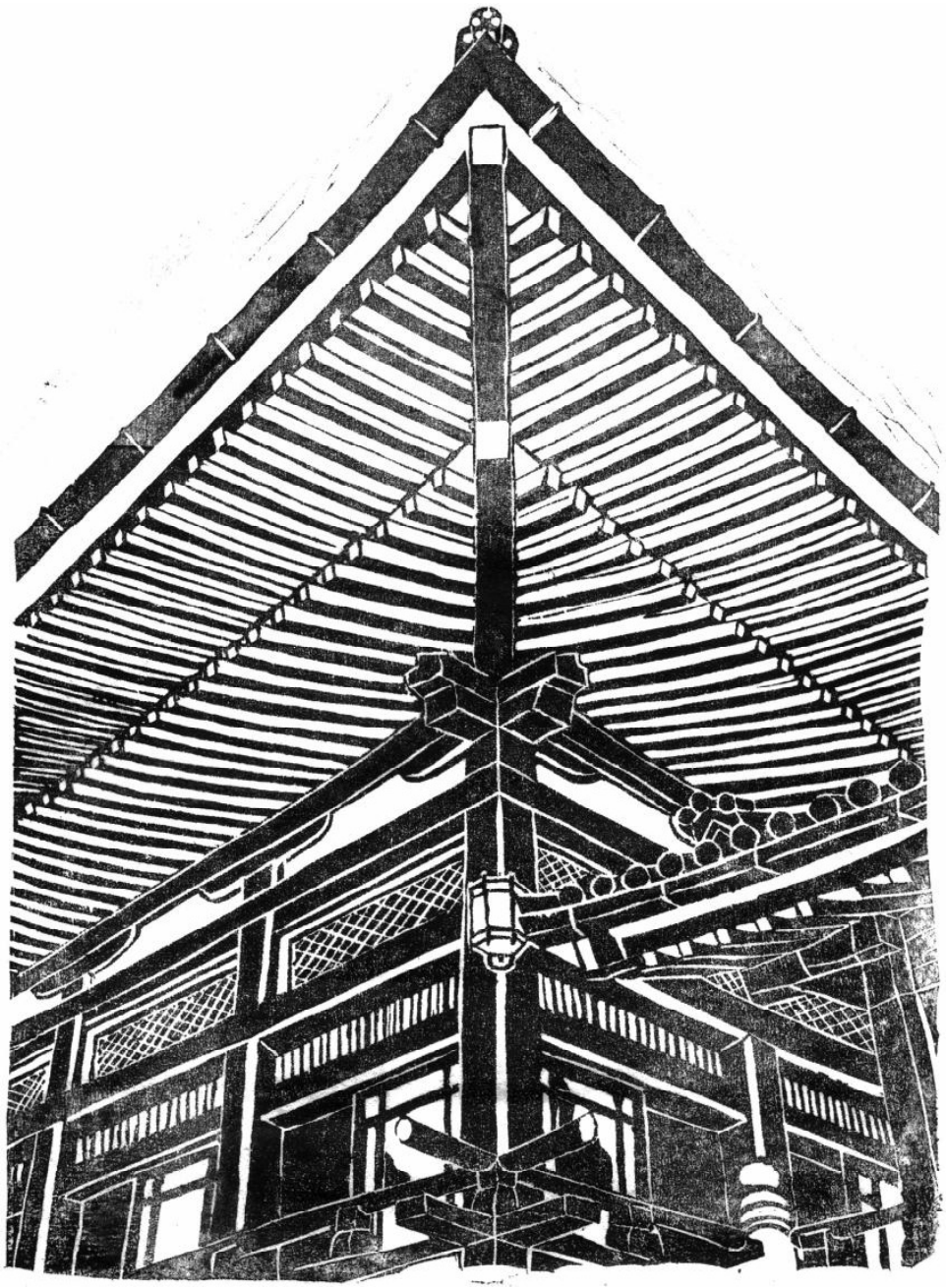
かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
（0865）
電話 66−1311
FAX 66−1314



西礼拝場南隅

おつとめ奉仕者の増員

・一人ひとりが日々に真実を尽す
・布教によるおつとめ奉仕者の増加
・後継者講習会への参加による奉仕者の増加
・おぢばへの伏せ込みひのきしん

立教171年
2月号

年頭会議における大教会長様お話し

喜び上手になろう

昨年は教祖百二十年祭が無事つとめ終えられて次の塚・教祖百三十年祭に向かっての新たな歩み出しの年として一年つとめました。

笠岡においては、一つの大きな目標を掲げることによってもっと歩きやすい道になろうとの思いから、大教会として、教祖百三十年祭に向かって「おつとめ奉仕者の増員」を目標に掲げて、昨年一年間共々に歩みを進めました。

ありがたいことに、部内先々、どの教会でもよふぼく・信者の方々が、「おつとめ奉仕者の増員」を常に口に出してそれに向かって歩み出しを進めている姿が見うけられます。

今年は、次の塚に向かっての二年目の年ですので、今年一年の成人の歩みについて、皆さん方と共にご相談を申したいと思います。

本年の成人目標

大教会としては、百三十年祭に向けての目標を高々と掲げておりますので、これは百三十年祭に向かって間違いなくつとめる。とにかく「おつとめ奉仕者の増員」が第一目標です。

◎日々に、真実の種をまき、真実を積み重ねる

よふぼくになると『おかきさげ』を頂戴しますが、これは、よふぼくになった一人ひとりが、これをよふぼくの心の角目としてしっかりと成人の道を歩むという意味でこの『おかきさげ』を頂戴します。

その中に書いてある事柄を申すなら、第一には「日々の心遣い」ということです。

「時々」よふぼくだったらいいということではなく、やはり「日々常々に」よふぼくの心を持ち続けるということ、「よふぼくとして日々の理をしっかりと積む」ことの大切さがここに述べられています。

教会に来た時だけはよふぼくになるが、普段はよふぼくであることを忘れて不足ばかりになったりいんねんを積むばかり……というようなことになりかねませんから、先ず「日々の中でよふぼくとしての自覚をしっかり持つ」ことが大切です。

「おつとめ奉仕者を育てる」、これは真実の人を育てることに外なりませんが、そのための理作りとして、今いるよふぼく一人ひとりが日々の真実をしっかりと伏せ込み、積み重ねるという上から、笠岡に繋がる「よふぼく一人ひとりが日々の真実の種まきをしよう」ということを申しました。

それも踏まえて昨年一年をおつとめいただきましたが、これは百三十年祭に向けての動きであって昨年一年で終わりではないので、「毎日続けるところに大きな理がある」ということを、改めて皆さん方には知っていただき、昨年より思いをより強くしていただきたい。

「誠の心」とは何かといえば、親神様のご守護に対する喜び・感謝の心こそが「誠の心」であります。

百三十年祭に向かってよふぼく一人ひとりがその喜び・感謝の心を、お礼として、真実の種まきとして、何か一つ心定めしてそれを日々積み重ねていくというところに、日々親神様のご守護お働きを感じる機会にもなるし、例え喜べない日があってもその心定めを果たすことによって親神様のお働きをそこで改めて気づき、また喜びの心を持つきっかけにもなろうかと思います。

ですから「日々の理作り」――親神様へのお働きに対する喜び・感謝の気持ちを先ず態度に表す

ということ――を、改めてお互いにしっかり心に置きましょう。

「何やそんな簡単なことか」と思わずに続けていく、続いてこそ道であり、これを百三十年祭まで続けていくというそこまで本当に長い気持ちをもっていかなければ、これは簡単なようでなかなか続けられないことですから、この二年目、何でも「続ける」という思いを更に強めて、昨年以上にしっかりと確実に毎日積み重ねていく。そのことを二年目としてつとめられればありがたいと思います。

◎ご恩報じの心をもって、心定めの完遂を

更に『おかきさげ』には、よふぼくとしての二つ目の大切な心の角目が書いてありますが

又一つ、これまで運ぶという、尽すという。運ぶ尽す中に、互い扶け合いという。互い扶け合いというは、これは諭す理。人を救ける心は真の誠一つの理で、救ける理が救かるという。よく聞き取れ。又一つ、これまで運ぶ尽す一つの理は、内々事情の理、めんく事情の理に治め。

「人を救ける心」は「誠の心」ではなく「真の誠一つの理」だと仰せいただきます。

私たち信仰者には、救けていただいたご恩に対してご恩返しをしたいということからこの道を通っている元があります。国々所々の教会も、ご恩報じをするための理作り――おつとめをする場所としてお許しをいただいて名称の理があります。よふぼくとして、ありがたい、結構と喜ぶだけではなくて、喜びがあるほどご恩報じの気持ちを持たせてもらうことが大事だと思います。

そしてそのご恩報じこそが人をたすける道だと仰せいただいています。共々にご恩報じの道としての思いを更に強めて、百三十年祭に向かい、今年一年を歩みましょう。

年頭には、それぞれ心定めをしていただいておりますが、ただ数さえ出せばいいのではなくて、それは、毎年仕切ってのご恩報じであります。

ご恩報じとして、それに向かって何でもどうでもご守護いただくためのにをいがけ・おたすけの道を歩みます、しっかりたすけ一条の上につとめますという心を定めているのがこの心定めです。

ですから、「心定め完遂」、これを目指してどうぞ皆さんしっかりと心を一つに合わせてつとめきらせていただけますように、よろしくお願い申し上げます。

◎講習会への積極的な参加と事後のたんせい

昨年は、講習会に道の後継者を一人でも多く送りだすことがおつとめ奉仕者を育てていく第一歩のつとめだとも申して、それぞれに後継者講習会を始めとする講習会に大勢の方が参加されました。本当にありがたいと思っております。

後継者講習会は今年の四月で終了しますが、参加する資格がありながらまだ参加していない方もあろうかとも思いますので、今からでも決して遅くはありません、参加してもらえるように、講習会が終了するまでしっかり声掛けを続けましょう。

また、他の三日講習会等のおぢばでのいろんな講習会にも、今年も一人でも多くの人を送り出すようにしましょう。

真柱様も年頭のご挨拶で仰っていますが、おぢばでお育ていただいた一人ひとりをしっかりと教会でたんせいしてもらいたいということですので、今後は、教会活動に加わっていただくために、しっかりと声掛けして、教会活動に繋がり教会の手足になるように、それぞれ教会ごとにたんせいしましょう。

むしろこちらの方が大事であって、おぢばでお育ていただいて良かったと手放しで喜んでいるだけで、おぢばでたんせいした後の教会のたんせいがしっかりしていかなければ、同じことの繰り返しになります。例えば修養科生を送り出した後、なかなか教会に繋がってくれないというのも、お育ていただいただけになってしまって、教会での手足となっていないということです。

◎おぢばへの伏せ込みひのきしん

また合わせて、おぢばでお育ていただいたお礼の意味も込めて、大教会では今年一年「おぢばへの伏せ込み」も心においてつとめたいと思います。

おぢばがえりをしてただ参拝して帰るだけではなく、せっかくおぢばがえりした機会にお育ていただいたお礼の意味をこめてひのきしんをしてから帰ったらどうかということです。

それぞれの教会で「ひのきしん団参」という形でされてもよろしいが、大教会としては、十月二十五・二十六日、おぢばの秋の大祭がちょうど土・日ですので、「別席・ひのきしん団参」ということで大教会全体として取り組みたいと思っております。

メインの行事は二十六日にしますが、それぞれの都合もありましょうから、二十五・二十六の二日間に分けて「別席・ひのきしん団参」をしようと思いますので、それに向けて別席者のご守護をいただけるように努めてもらうと同時に、皆さん方にもしっかりお心寄せをしていただいて、共々にひのきしんに汗を流せればありがたいと思います。

ですから昨年と比べれば、「おぢばへの伏せ込み」が加わったかなという程度ですが、しかしながらその思いは昨年と同じではなく、百三十年祭への思いは、むしろ昨年より更に強めて、二年目（今年）をしっかりとした足取りでつとめられればと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

喜び上手になろう

◎心一つが我がの理

さて、『おかきさげ』に、

それ人間という身の内というは、神のかしもの・かりもの、心一つが我がの理。

心の理というは、日々という常という、日々常にどういう事情どういう理、幾重事情どんな理、どんな理でも日々に皆受け取る。

とあります。

つまり、心一つの理は全て受け取るということです。いい心遣いも悪い心遣いも皆受け取る。

私たちは身上なり事情が起こるとついつい心を濁してしまう。濁してしまうその心も、全て受け取っている。いんねんがあるから身上・事情にお見せいただくかも知れませんが、それらに関わる心遣いも実は全て受け取っているということです。

受け取るけども、

受け取る中に、たゞ一つ自由という一つの理。

自由という理は何処にあるとは思うなよ。たゞめんく精神一つの理にある。

ただその中にも心一つは自由がある、これを改めてしっかりとお互いに思案しなければなりません。

身上だから、事情だから、心を病むのではありません。私たちは、つい現れた姿に心を囚われてしまって、そこで親神様の心に添わないような心遣いをしてしまいますが、それも全て受け取られます。

しかし、例え身上・事情の中にあっても、「ああこれも親神様のありがたいご守護や」という心になることもできます。「この世界は全て親神様の世界」・「さあたすけてやろう、喜ばせてやろうというご守護の世界」だということがしっかり心に治まっていれば、それこそ「ああ身上・事情ありがとうございます」と喜べる理はいくらでもあるはずです。

その一つひとつをしっかり喜んで通ったら、それこそ誠一つ、誠の理なんだということでしょう。それが誠の心だということでしょう。

喜ぶときに喜ぶのだったら誰でもできるのであって、普通なら喜べない時にこそしっかり喜ぶという理を積むことが、誠の理に繋がってくるということではないのか、しっかりと思案しなければなりません。

「心一つが我がの理」ということです。お道を

通っていて、やはり頭で分かっていても、これがなかなか日々の理になっていません。

◎受け取っていただけない正論は無意味である。

「お道を思うがあまり」という気持ちは分からないのでもありませんが、それが「不足」になったのでは、それが誠の心になるのかどうか。「見るもいんねん、聞くもいんねん」ということを聞いていながらどこかで不足、不足の理になっていないか、これは教会長が先ず思案しなければなりません。

よふぼく・信者ももちろんですが、先ず道の先達たる、竜頭といわれている教会長は、やはり喜び上手でなければ、よふぼく・信者にその喜びの理を伝えていくこと、喜びの心に換えていくことはできません。

正論は正論かも知れない。しかし正しいということと受け取っていただくということは違います。何をもって正しいというのか、何をもって正論というのか。大事なのは親神様・教祖に受け取っていただけるかどうか、その心遣いです。

人の姿を見て不足するのは誰でもできる。しかしその一つひとつを、先ず自分の反省に繋げ、またそれを喜びに換えることができたならば、それこそよふぼく・信者の端々まで喜び上手になっていくはずです。

これが先ず、先達たる私たちの日々の心遣いでなくてはなりません。

例えば、祭儀式を教えるときに、「本部ではこういうようにしている」というと、後で時々、「こうしないといけないのですか」・「これに合わさないといけないのですか」というような質問があります。

そう言われたときは、私は必ず「いや別に合わさなくていいですよ」と申します。何故なら、もう既に「合わさなければならないんですか」という心を使っているからです。「ああ大教会長さんこう仰ったんならよし何でもどうでも合わせよう」なら聞く必要はないのです。

そうでしょう。黙って合わせばいいのです。「ああこういうように教えていただいたら本当にそうさせてもらおう」と思えばいいのです。でも「ああやって言われるけど」と、「けど」とかが出た時点で、その人の思いであって、そして実はそれはもうその通り、心通りなのです。

例えば心定めもそうですが、「もうだめだ」と思ったらもうだめなのです。「何でもどうでもやろう」・「どうしてもこれだけはさせていただこう」ならよろしいが、「ああ言われるけどあんなこと言われても無理だわ」と思ったら、やっぱり無理なのです。

「心通り」だということです。

「あいつはだめや」と思ったらもうやっぱりだめなのです。その人がだめなのではなく、こちらの気持ちがもうだめなのです。相手がどうのこうのではなくて、全部自分の心通りだということです。

私一人を見て、「ああ素晴らしい人だ」という人もあれば「とんでもない奴や」という人もおられましょうが、その違いは何処にあるのか、私は何も変わらないのに……。やっぱり見る人の心次第、正しくその人の心通りなのです。

だから、自分自身がどういう心を使っているのかということは、全て見て聞いた中に全部現れてきるということを、改めて皆さん方に知ってほしいと思います。

一寸言葉が足らないかも知れませんが、要するにぱっと言われたことに対して素直にすっとそのまま考えずにできる人はすごい徳があると思います。またそういう人はどんどん徳をいただかれるけれど、やっぱり考えて考えて「どうしよう、どうのこうの」と言えば言う程、自分の徳を失っているなあと感じます。その辺のニュアンス、どう説明したらいいのか、皆さん方にもまたしっかりと思案していただいて、今年の歩みを進めていただいたらありがたいなあと思います。

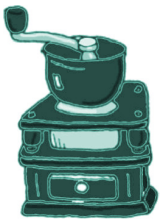
◎お受け取りいただける心――喜び上手

見るもの、聞くもの全てを喜ばさせてもらうところに、どんどん親神様・教祖に受け取っていただく理が生まれ、それが「たすけあい」という一つの理に繋がってくるのです。

年頭から皆さん方には少し耳の痛いことを申しましたが、今年一年でどれだけ喜びに切り換えられるか、つまらんことを「つまらん」というのではなく「ありがたい」という心に切り換えることができるか、それが今年一年の成人の「バロメータ」と思案していただいて、共々にしっかりと成人できる一年としましょう。

《以上要旨》

談話室



後継者講習会

東福山分教会　枝廣千香

この度、後継者講習会を受講させて頂きました。仕事は何とかお休みを頂き、講習でお道の色んな立場の方と、お話出来るのを楽しみにしていました。

講習では朝づとめから始まり、クラスの人とのねり合いや、講話を聞いたり、ビデオを見たりと一つ一つの時間で気づかされる事心に残る事がありました。

授業では教祖のひながたを学びました。

教祖がご苦労された数々の出来事、先人の方の命を懸けた信仰やおつとめの話を聞かせて頂き、たくさんの方の苦労と真実のお陰で、今の天理教の教えがあるのだと改めて感じました。そして、どんな状況でも、常に喜びの心を持って通られた教祖は、苦しい思いや、辛い状況に立たされても喜びに変えて通られており、自分も心をきれいにして、教祖に自分の心に居て下されるように努力する事が大切なんだと思いました。

とはいえ、時には喜べない状況や、悲しみや後悔に直面してしまう事もあります。

その時、それを不足や悲しみの気持ちだけで過ごすのか、それとも、自分の行いを振り返り、何を考えさせられているのか考えて、気の持ち方を改める努力をするのかでは、先の道が変わってくるのではないかと感じました。その時は、辛い気持ちでいっぱいで、見えない先の事は誰にも分からないと思います。だから、おつとめをして、いつも神様にもたれて、心を通わす事が大事なんだと思いました。教えの八つのほこりは誰でも積んでしまうもの、うそはついてしまうこともあります。だから、おつとめでほこりを払って頂き、心をきれいにして頂くことが大切なのだと教えて頂きました。

喜べない事を喜びに変えることは、本当に難しくて、頭で分かっていても、なかなか実行に移せないのが現状ですが、少しずつでも実行することが、自分の成長に繋がり、神様にお喜び頂けるのだと思います。

改めて自分が、両親の子供として生まれさせて頂き、今の教会に生まれさせて頂いたという事は、神様のお引き寄せなのだと感じました。そして、家庭の信仰の元一日を知り、いんねんを理解した上で、私達兄妹の代でも明るい信仰をさせて頂きたいと思います。

その為には、教会の月次祭に一人でも多く参拝に来て頂いて、おつとめ着を着て、おつとめを勤めさせて頂くことが、神様もお喜び下さる事だと思いました。

そして、これからは、職場でのひのきしんや、おさづけの取り次ぎも、自分なりにもっと身近なものとして、させて頂けるような努力をしていきたいです。

今回の講習で学んだ事は本当にたくさんあって、自分にとってとてもプラスになったと感じております。いい時期に行かせて頂いて、有り難く思いました。

春季大祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます　親神天理王命の御前に　会長上原理一　慎んで申し上げます

親神様には一列子供の陽気ぐらしを楽しみに紋型ない所より道具を引き寄せ　守護を教え八千八度の生まれ替わりを経て　この世と人間をお創造になったばかりでなく　旬刻限の到来と共にこの世の表にお現れになり　よろづいさいの真実を明かされ　今日の成人へとお導き下さいました事は　誠に有難く勿体ない極みでございます

身上・事情を通してお引き寄せ頂いた私共は　真の親心に触れ御守護お働きを　心身共に感じさせて頂き　日々は喜びのうちに生活させて頂きながら御恩報じを念頭に　朝夕に御礼申し上げつつにをいがけおたすけにとたすけ一条の御用の上に勤め励ませて頂いております

その中にもこの月二十六日は月日のやしろとなられ五十年もの長きに渡って　陽気ぐらしのひながたをお通り下さった教祖が　御身をお隠しになられてろくぢに踏み均しに出られた尊い日柄でございますので　おぢばでは春の大祭が執り行われますが　その理にならい此の教会でも只今から　おつとめ奉仕者一同　明治二十年の親の思いを感じ取りながら心を引き締めて　勇んで坐りづとめてをどりをつとめて春の大祭を執り行わせて頂きます

御前には寒さ厳しき中も厭いませず　今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が相共にお歌を唱和し　日頃の御高恩に改めて御礼申し上げ　尚も変わらぬ御守護にお縋りする状を御覧下さいまして　親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて年が改まり　心も新たになったと言っても世上では相変わらず痛ましい事件が次々と起こっています　個人の自由尊重の意をはき違えて　欲に切りない泥水の深みに入り込んでしまっている人が多くなっている事に心を痛めます　そんな中だからこそ私共は「おつとめ奉仕者増員」という目標をしっかりと定め　親神様教祖に受け取って頂ける真実の理作りを　まず自らが日々わずかずつでも確実に行う所存でございます　そして後継者講習会や三日講習会等　おぢばでの仕込みに一人でも多くの道の後継者を送り出すと共に　その後の丹精をしっかりと教会でさせて頂く所存でございます　又本年はおぢばでお仕込み頂いた御礼も兼ねて　おぢばへの伏せ込みひのきしんを勤めさせて頂く所存でございます　更には又御恩報じを念じ年頭に定めた心定めの完遂を目指し　親神様の思召を伝え　個々の自由の意味目的は扶け合いにある事を一人でも多くの人に知って貰うべく　にをいがけおたすけにと邁進させて頂く覚悟でございます

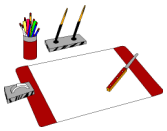
何卒親神様には年毎に親孝心の思いを深め　より一層の成人を目指す皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして　万たすけの上に尚も自由の御守護をお現し下さり　世の人々の心が扶け合いの理に目覚めて　お望み下さる陽気ぐらしの世の状が一日も早く実現しますようお導きの程を　一同と共に慎んでお願い申し上げます

・原・稿・募・集・

内　容　①小随筆　②教会・布教所の独自の活動の紹介　③俳句・和歌・川柳　④教会行事開催後の報告記事 等々

字　数　１０００字前後（８００字～１２００字）　題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。俳句等は１句からでも結構です。

寄稿先　下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。



郵　便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江377

ＦＡＸ：0865-66-1314　　メール：**tenkasa@yahoo.co.jp**

尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。

こころの詩

▼養徳社発行『陽気』誌一月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「案」、選七十句中、笠岡に繋がる教友の方一名、一句が見事選ばれ掲載されていましたので転載させて頂きます。おめでとうございます。

天位　東悠分教会前会長夫人　田林 美智子

案ずれど心通りや理の世界

▼表紙の版画　東城分教会長　横山 逸郎 氏

大教会だより

＝教会指令＝

◎任命願

照雲 分教会

＊前任　雑賀 明

＊新任　雑賀 元生

新輝豊 分教会

塩田 能往（よしゆき）

次なる塚に向かう歩み出しの

昨年、隣地60坪建物付をご守護頂き、皆勇みに勇んだ慶事と立て合い、二人の用木がおたすけの甲斐なく出直された。

又、ギャンブルでカード借金事情より希望退職に応じ、返済に充てた用木にギャンブルを慎み、今の内に中古住宅購入との勧めに逆ギレされ、おたすけの難しさを痛感していた折、先輩の書物に「信心していてもすべて順調にゆくとは限らない。病気をすることもあれば返って悪いことが起きてくる場合もある。今のことだけ考えていては疑問は解けない。信仰以前のことも考えてみると皆相当なほこりを積んでいるのが普通。①良い種、悪い種をまく場所②芽が出る順番。古い方を先に出して下さるが全部一度に出されると一家全滅という姿になったのでは最近まいた種が元も子もなくなるので③大難を小難として下さる。」と。

今だけを見るのではなく、見えないところを悟り心を入れ替え勇んでおつとめ奉仕者の増員に向けて頑張りたいものである。（え）